

あい かわ きよ なり

藍川清成



藍川清成 (1872 ~ 1948)

写真：『中京名鑑』昭和11年版

社長自ら範を示して規律を厳守する

—東西連絡線を完成させた名古屋鉄道—

藍川清成は1872(明治5)年、岐阜市藍川町で弁護士であった父・清通と母・菊栄の長男として生まれた。1895(明治28)年、東京帝国大学法律科を卒業し、翌年名古屋市で弁護士を開業し、官選弁護人や会社、銀行の法律顧問などを勤め、30歳にして名古屋市弁護士会会長に推挙された。また、政界に進出し名古屋市市議員、愛知県議会議員、衆議院議員などを歴任した。

■名古屋電灯(株)から愛知電気鉄道(株)の時代

名古屋電灯では顧問弁護士から1904(明治37)年に監査役、1907(明治40)年に取締役役に就任した。そして1910(明治43)年に福沢桃介が筆頭株主になると、引続き顧問弁護士となり、福沢桃介との関係がより密接になった。

愛知電気鉄道は1910(明治43)に設立され、岩田作兵衛が初代社長に、藍川が監査役に就任した。その後、社長に福沢桃介が、続いて藍川が就任した。そして知多半島西岸の名古屋熱田伝馬町～常滑間の鉄道敷設を始めた。電力については当初火力発電所の建設を計画していたが、名古屋電灯との間に電力購入契約を締結した。また、電気事業の兼営を考え、知多半島西岸、名古屋市の鳴海、有松、大高の各町に送電した。

1919(大正8)年10月11日に新舞子付近での電車正面衝突事故で、死者を出す大惨事が発生した。藍川は現場に駆け付け責任を感じ、愛知電鉄の信用を回復するには規律を肅正し、施設を複線化することを考えた。これを契機に弁護士を子弟に任せ鉄道事業に専念することを決意、毎日電車で午前8時に出社して、社長自ら範を示して複線化工事の陣頭指揮の采配をとった。

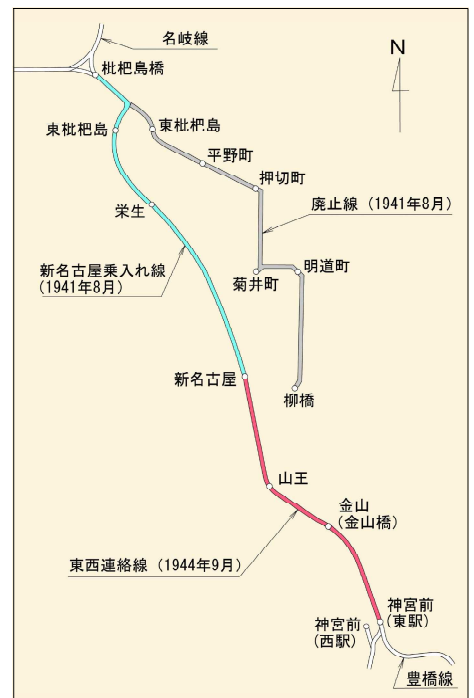
■東海道電気鉄道の構想から名古屋鉄道の初代社長就任

福沢桃介は1919(大正8)年、東海道電気鉄道(株)を設立し、東京大阪間を電気機関車による高速電車を走らせる構想を立てたが、時期尚早で、また、安田善次郎が刺殺されたため、資金の保証ができなく経営に行きづまり断念した。そこで愛知電気鉄道は東海道電気鉄道を吸収合併し、免許権を引継ぎ豊橋まで路線を延長した。

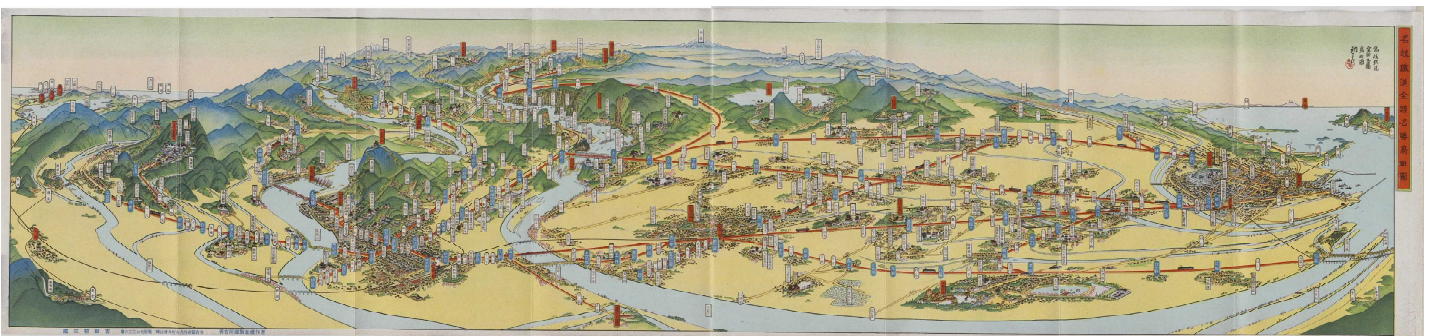
昭和時代に入ると世界恐慌や満州事変を背景に各地で交通事業の統制が進む中、愛知県の二大鉄道会社の名岐鉄道(枇杷島～岐阜間)と愛知電気鉄道(神宮前～豊橋間)が1935(昭和10)年合併し、社名を名古屋鉄道(株)に改称し、藍川が初代社長に就任した。

■名鉄を躍進させた東西連絡線

名古屋鉄道は1941(昭和16)年に新名古屋駅を建設、第二次世界大戦中の1944(昭和19)年に新名古屋駅～神宮前駅を結ぶ東西連絡線を完成させた。そして1948(昭和23)年、名岐・犬山・津島・一宮の各線の電圧600Vを1,500Vに昇圧、1時間50分で走る待望の豊橋～新岐阜間の直通運転を実現させた。



東西連絡線路線図 図：石田正治



吉田初三郎の鳥瞰図「名岐鉄道全線名勝鳥瞰図」

国際日本文化研究センター所蔵

(寺沢安正)